

優秀賞

本当の親切とは行動である

静岡県 城山中学校 三年
杉山 拓海

「カー、カー」

カラスが地域のごみ置き場を荒らし、そこら中にごみが散乱している。(またか)と僕は思っていた。僕たちの地域には、ごみ置き場があった。そこにごみが置かれるたびに、カラスがやってきて格子の隙間からくちばしを使い、ごみ袋を破っている。そのせいで、僕たちの地域のごみ置き場は、だいたいいつもごみが散乱していた。

そんなことが毎日のように続き、困っていたある日、見慣れない男性が散乱したごみの前に立ち、何か考えているようだった。おそらく、最近この地域に引っ越してきたのだろう。今までもこの男性のように、引っ越してきて一番初めにこの状況を目の当たりにして、何か感じているような人は数人いた。

しかし、次の日からは「いつものことだ」と思うのか、驚くこともせず、何も感じなくなる様子だった。僕を含めて、前々からこの地域に住む人たちも同様だった。その男性の行動も、その日まではみんなと同じだった。そう、その日までは。

次の日の午後、その男性はネットなどを持参して、ごみ置き場の前に来ていた。何をするのかと見ていたら、ごみ置き場の格子の間にネットを張り始めたではないか。丁寧に、丁寧に張っていく。カラスによるごみの散乱を防ぐために張ったのだと思うが、かつてこの状況を見て、対策のために行動に移した人は誰一人いなかった。それをこの男性は今、やっているのだ。それから約3時間後、すべての格子の間にネットを張り終え、満足した顔で帰って行った。

あの男性が初日にごみ置き場の状況を見たとき感じたことは、この地域に住む人たちと同じだったと思う。しかし、その後の行動が他の人たちとはまったく違った。おそらく、ほかの人たちも行動に移そうとは思っていたのであろう。しかし、今までの人たちは行動に移そうと「思った」だけで、移しはしなかった。それを、あの男性はやったのだ。

男性は、どのような考えから行動に移したのだろう。僕は次に男性を見かけたら、聞いてみようと思った。あのごみ置き場の状況を見てから、今日行動に移すまでの気持ちを。

いつものように、学校から帰る途中だった。ちょうどあの男性が、ネットを張ったことでカラスに荒らされなくなり、きれいになったごみ置き場にごみを捨て、戻って来ているところだった。

そこで、僕はどのような気持ちであの行動をしたのか聞いてみた。すると、その男性は、

「人のために行動することに、理由はいらないんじゃないかな？」

と言った。

その言葉は今でも、僕の脳裏に焼きついている。